

令和5年度 産業厚生委員会 行政視察

報告者 下竹芳郎

日時：令和5年10月11日（水）15時～

場所：愛知県長久手市

内容：長久手田園バレー交流施設あぐりん村（視察のみ）

今回の行政視察の初日に伺った長久手市は日本三大都市、名古屋市に隣接する古戦場跡が点在する人口61,000人のまちである。

長久手市が、田園バレー構想の1つである「ふれあい・交流・体験の場」として、平成19年4月に開設した「長久手田園バレー交流施設 あぐりん村」を視察した。都市近郊農業の活性化や地産地消、都市農業交流の促進を目的に、農産物直売所、パン工房などを備えた農を通じて誰もが交流し、憩い、ふれあい、楽しめる場を提供している。

「食の安心と安全」を食卓に届ける事をテーマに安全性を伝えるために商品のバーコードをスキャンすれば栽培履歴を確認でき、農薬や化学肥料の使用量を知ることができるシステムを導入し先進的で信頼性のある販売方法である。価格にしても安くはなく、安心・安全を付加価値としていると感じた。

場所も長久手市の福祉施設や温泉施設と隣接していて、アクセス面も名古屋駅から地下鉄で約 30 分、最寄駅から無料シャトルバスが 1 時間おきに運行して 15 分で行ける、また最近オープンしたばかりのジブリパークも近い好立地である。平日の昼間だったにも関わらず、そこそこの人で賑わっていた。

視察のみで、説明がなかったため情報が視察したこととパンフレット、ネット情報しかなく詳しい事がわからなかったが、慣れない場所で委員会の連携が深まり次の日からの正式な行政視察への弾みがついた。

日時：令和5年10月12日（木） 11時半～

場所：三重県いなべ市

内容：(1)アウトドアシティいなべ事業の運営について

説明：農林商工部 商工観光課

(2)まちづくりの拠点施設「にぎわいの森」について

説明：グリーンクリエイティブいなべ(GCI)

2 日目は名古屋駅から電車を乗り継ぎ約 2 時間かけ三重県の最北部に位置する平成 15 年に 4 町が合併し人口約 44,000 人の、いなべ市へ調査に行った。

令和元年に約 100 億円の予算で新庁舎を新設するにあたり同じ敷地内にその内の約 4 億円を投じ地方創生の先行型交付金を利用して市民憩いの場、交流人口を増やす場として「にぎわいの森」を整備した。既存の森を利用して道、建物の角度まで専門家の話を聞き、オシャレでハイセンスな森の中にテナントで食を中心とした素敵なお店が 5 つ点在し経営者はすべて市外の方で中には移住者もいるという事だった。

この事業はいなべ市の特性を活かしたまちづくりを推進するために一般社団法人グリーンクリエイティブいなべ(以下 GCI)を設立していなべ市と共同で行っている。とても斬新的で後から紹介するキャンプ事業やいなべ市再生のキー

ポイントとなっている。

お昼時と重なったため「にぎわいの森」の中のレストランでランチも頂いたが地元の素材を使い、しかもオーガニックというこだわりようで平日なのにたくさんの人で賑わっていた。来場者も市内 18%、市外 41%その他が愛知県を中心とした県外という事だ。いなべ市自体、山林に囲まれているが半径 30 km 以内に 360 万人が住んでいるという地の利がある。

しかし、この地の利もしっかりとした戦略がないと成果を上げられない。

この「にぎわいの森」効果でいなべ市の入込客数も 2017 年 46 万人、2018 年 43 万人、2019 年 80 万人、2020 年 72 万人、2021 年 68 万人と途中コロナ禍にもかかわらず、いなべ史上、最大の交流人口が訪れた。

次に前後するがアウトドアシティいなべ事業も説明を受け 2 ヶ所のキャンプ場を視察した。この事業も GCI が関連して展開し異なる場所の 3 ヶ所のキャンプ場を市で整備して指定管理施設として運営している。

ファミリー向けの「青川峡キャンピングパーク」、犬も同伴でき災害時の避難所も兼ね備える「やまてらす」、今年オープンしたばかりの上級者向け、高級志向の北欧を思わせるような「Nordisk Hygge Circles UGAKEI」、青川峡と UGAKEI の 2 ヶ所を視察させて頂いたが雄大な自然、景観に溶け込んだ建物、行き届いた管理すべてに圧倒された。価格表を見たがぜんぜんリーズナブル

ルではないが3ヶ所とも大人気で予約が取れないため令和8年にもう1ヶ所
キャンプ場を整備する予定だと言う。

コロナ禍も終わりキャンプブームも翳りを見せているのではないかと言う
問いに、マニアはリピートして何度でも来ると自信満々の答えが返ってきた。
ここでも半径30kmに360万の人がいるという裏付けなんだと確信した。

本市にも火の神公園キャンプ場という絶景の海に見えるキャンプ場があり、
人気はあるのだがフリーのため稼げていない状況である。管理人等を置き費用
対効果を考えれば致し方ないが、火の神公園周辺活性化という事も考えれば、
交流人口を増やし外貨(市外の消費者)を稼げるアイデアになるのではないか
と思い今回の調査場所に選んだ。しかし近くに人口集積地があるのとないの
では違うことは分かっているが、何かヒントを掴みこの事を研究、精査して本市に
も活かしていきたい。

今回、調査した2つの事業は、とても好評で他自治体からの視察等も多数
あるそうで、職員も自慢の事業という事で自ずと職員のモチベーションも上が
るはずだ。いなべ市は、これ以外にも明日行く常滑市同様に福祉を中心とする
子育て支援にも力を入れ取り組んでいるそうである。

日時：令和5年10月13日（金） 10時～

場所：愛知県常滑市

内容：子育て支援について

説明：福祉部 子育て支援課、子育て総合支援センター

行政視察、最後にお邪魔した常滑市は中部国際空港の玄関口で日本六古窯の一つである常滑焼で有名な人口約58,000人のまちである。

ここでは枕崎市議会でも多数の議員が特に興味を示す子育て支援について調査した。まず常滑市子育て総合支援センターを視察した。ここは、そこまで新しくない地区公民館の中にあり同じ敷地内にシルバー人材センターもあり、この2つが、うまく連携しているという事だった。午前中に訪問したが数組の親子が利用していて利用者との信頼関係を図りしっかりと活用されているのがうかがえた。

その後、令和4年に竣工したばかりのとても機能的な常滑市役所に移り子育て支援についての説明を受けた。この子育て支援は、常滑市の一丁目一番地の施策という事で力の入れようも違うように感じた。

いくつかある事業のうち発達に特性のある子どもの家族を対象にしたペアレントトレーニング講座事業が興味深かった。この事業は本年度で2年目、年6

回のグループワークで講座を開き本年度は8名受講している。

子どもとの接し方のコツを知ろうという事をテーマに今年すでに3回あり、その都度アンケート調査をしていて「子どもとの接し方に自身が持てたか」という問いに1回目は全員「思わない」、2回目は半分の人が「思う」、3回目にして全員が「思う」に変わった。講座が終了したころは家族のモチベーションもよい方向に変わるはずである。

そして子どもの発達支援に特化した冊子も市民が手にとれて本当に細かいところまで手が届いている。

今回、常滑市の子育て支援を調査して、わかった事は子育て支援は単にハード面とか、もちろん経済的支援も大事だが、やはりソフト面、市の職員や専門士の方々そして地域の人が子どもを持つ家族と信頼関係を築き寄り添い、ふれあい切れ目のない、きめ細かなケアが大切だと感じた。

そこはマンパワーでしか出来ない、常滑市は空港そして常滑ボートレースもあるため財政も豊かだと考える。本市も頑張っているが、ここに近づける事は出来ると思う。

最後に行政視察を受け入れてくれた、いなべ・常滑両市の職員、関係者のみなさん快い対応ありがとうございました。今回の調査内容をじっくりと精査してまちづくりに活かしていこうと思う。